

Media Release

シンジェンタは、農業におけるイノベーション推進の為、ゲノム編集と育種に関する技術の権利を公開いたします

- 複雑な課題に対するソリューションの提供や食料と農業の持続可能性に推進することを目的とした全世界の学術研究に対して、権利を提供いたします。
- 共同イノベーションプラットフォーム「Shoots by Syngenta」を通じて CRISPR ベースの技術の可能性を広げる

2024年6月4日、スイス、バーゼル

この度、世界最大の農業技術企業の一つである Syngenta グループは、農業におけるイノベーション促進と持続可能性の推進のコミットメントの一環として、全世界の学術研究に対し、特定のゲノム編集および育種技術の権利を提供いたします。イノベーション協力支援プラットフォームである *Shoots by Syngenta* を通じて、本権利にアクセスすることができます。

遺伝子編集のための育種ツールを含む、最適化された CRISPR-Cas12a に関する知的財産権となります。CRISPR 遺伝子編集によって、異なる生物種の DNA を含まない植物の品種改良を自然界や従来の育種方法よりも迅速かつ効率的に行うことが可能になります。

「CRISPR 技術のパワーは、農家の皆様に価値のある革新的な作物を生み出す驚くべき可能性を秘めています。」と、Syngenta, Seeds Research のグローバルヘッドである Gusui Wu は述べています。「農業における CRISPR の利用拡大は、植物育種へのアプローチを変革し、生産性や抵抗性のより高い作物を生産者の皆様にお届けするイノベーションの発

見と展開を加速させることでしょう。私たちは、農業の持続可能性を向上させるためのイノベーションを推進するため、世界中の大学や学術機関に協力を呼びかけています。」

シンジェンタの科学者たちは、この技術革新の波をリードする存在として、CRISPR-Cas ゲノム編集技術を改善するために絶え間ない技術革新を行ってきました。シンジェンタの科学者たちは、効率と実用性の両方を向上させ、作物改良のツールとして CRISPR-Cas12a を最適化してきました。

シンジェンタは、以前から公的機関や民間団体との技術共有にオープンであり、学術的・非営利的な研究利用のために、自社独自の技術への簡単・迅速・容易なアクセスを可能にしてきました。その一例がシンジェンタの野菜ライセンス・プラットフォームで、育種会社や学術機関がシンジェンタの遺伝資源にアクセスして育種することを可能としてきました。

全世界的なイノベーション協力支援プラットフォームである *Shoots by Syngenta* は、食糧と農業における最も複雑な課題の解決策を見出すことを目的としたパートナーシップを構築することを目的として、2023年に設立されたものです。気候変動を緩和し、生物多様性を高め、大規模農家だけでなく小規模農家にも役立つソリューションを開発するために、学術機関、研究機関、その他の事業体からなる外部のイノベーション・エコシステムと、6,000人以上の科学者からなるシンジェンタのグローバル・ネットワークを結集しています。このプラットフォームは、公開性と透明性という価値観に基づいて構築されています。

Seeds R&D パートナーシップのグローバルヘッドである Stuart Harrison は以下のように述べています。「シンジェンタでは、コラボレーションがイノベーションを加速させると信じています。」「この新しい取り組みは、エキサイティングな技術革新をもたらすだけでなく、世界中の農家の皆様に支援する重要なクロップソリューションを推進する大きな可能性を秘めています。と述べています。

North Carolina Plant Sciences Initiative のエグゼクティブダイレクター Adrian Percy は、以下のように述べています。「シンジェンタが提供するこれらの革新的技術を利用することで、North Carolina Plant Sciences Initiative と North Carolina 州立大学は、ゲノム編集の能力をより広範囲に加速させることが可能となります。私たちは、これらの技術を私たちの研究プログラムに応用することで、さまざまな作物の改良が可能になり、生産者の皆様の利益につながることを確信しています。」

技術のライセンス供与の為にシンプルで合理的なプロセスが確立されています。利用可能な技術に関する追加情報は、*Shoots by Syngenta* website 上の <https://shootsbysyngenta.com/outlicensing> オンラインカタログから検索することができます。

シンジェンタグループについて

シンジェンタグループは、250年以上前にルーツを持つ世界最大の農業技術企業の一つです。世界100カ国以上で約6万人の社員とともに、科学主導の技術革新によって農業を変革し、高い生産性と高品質の食糧を提供する一方、気候変動と闘い、自然を回復させようと努めています。シンジェンタグループは、土壌の健全性を育み回復させ、気候や水資源、生物多様性を保護し、農業現場の生産性と収益性を向上させる成果ベースの食料生産システムである Regenerative Agriculture（環境再生型農業）を推進するために、生産者の皆様と協力しています。シンジェンタグループは中国の上海で登記されており、スイスに経営本社を置き、4つの事業部門がそれぞれの強みを発揮しています。：スイスに本社を置く Syngenta Crop Protection、米国に本社を置く Syngenta Seeds、イスラエルに本社を置く ADAMA®、そして、Syngenta Group Chinaです。これらの事業が一体となって、世界中の顧客の皆様に業界をリードするサービスを提供しています。

シンジェンタグループの写真とビデオは、Syngenta Group Media Library でご覧ください。

Contact Information

Media Relations

media@syngentagroup.com

データの保護は我々にとって非常に重要です。皆様は、GDPR第6条第1項f（「正当な利益」）の法的根拠に基づいて本公表文書を受け取っています。ただし、シンジェンタグループに関する今後の情報の受け取りを希望されない場合は、簡単なメッセージをお送りください。当社は、この目的のためにお客様の情報を処理することはありません。詳しくは privacy statement をご覧ください。

将来の見通しに関する記述についての注意事項

本リリースには、「予想する」、「だろう」、「意図する」、「可能性がある」、「計画する」、「見込む」、「推定する」、「目指す」、「予定通り」などの用語や同様の表現で特定できる、将来の見通しに関する記述が含まれている場合があります。このような記述は、リスクや不確実性の影響を受ける可能性があり、実際の結果がこれらの記述と大きく異なる可能性があります。シンジェンタグループにとって、このようなリスクと不確実性には、法的手続き、規制当局の承認、新製品開発、競争の激化、顧客の信用リスク、一般的な経済・市場環境、コンプライアンスと是正措置、知的財産権、組織変更の実施、無形資産の減損、遺伝子組換え作物・生物または作物保護化学物質に対する消費者の認識、気候変動、為替レートおよび/または穀物価格の変動、単一供給元との取り決め、政治的不確実性、自然災害、データセキュリティの侵害またはその他の情報技術の混乱に関するリスクが含まれます。シンジェンタグループは、実際の結果、変更された前提、またはその他の要因を反映するために、将来の見通しに関する記述を更新する義務を一切持たないものとします。